

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年2月27日現在

今月の重点活動

■だいこん **GAP本来の意味・意義などを指導**

2月27日、JAぎふ則武支店において、JAぎふだいこん部会の総会が開催され、生産者や市場関係者55名が出席した。総会では、次年度の重点活動目標として、土づくりの推進や若手生産者との意見交換会など新たな取り組みが決議された。

総会終了後の研修会では、農業普及課から「GAPを考える」と題し、GAPが普及し始めた背景、GLOBAL GAPとは何か、GAPの本来の意味・意義などについて指導した。また農薬の正しい使い方のDVDを放映し、農薬の適正使用についても啓発した。



【GAP研修会】

活力ある新産地づくり

■アスパラガス **根の糖度調査を実施**

JAぎふと農業普及課は、2月上旬に管内のアスパラガス生産ほ場において、春芽の収穫開始から立茎開始までの収穫日数の目安を把握するため、根の糖度測定を行った。

春芽の収穫日数を35～40日確保するためには、根の糖度を15～20%確保する必要があるが、今回の調査では、根の糖度は8～17%とやや低い傾向であった。今後は定期的巡回により糖度の状況に合わせた適正な収穫日数を指導することとしている。



【根の糖度調査】

■春ブロッコリー **栽培研修会の開催**

JAぎふブロッコリー生産連絡協議会のうち、岐阜市西部、本巣市、山県市の生産者有志8名が春ブロッコリーの栽培に取り組んでいる。平成26年度春から、収穫後の予冷体制を強化したことで販売先の評価は高かったが、一方で収穫時期が集中する新たな課題が発生した。そこで不織布のべたがけ栽培を組み合わせることで収穫時期を分散する方針を立て、農業普及課では、2月5日の栽培研修会において、べたがけ栽培の注意点など管理ポイントについて指導した。



【べたがけ（左）と露地（右）の生育】

売れる農畜産物づくり

■ほうれんそう **GAP現地調査を実施**

2月3日、島園芸振興会のほうれんそう生産者を対象に、GAP現地調査を実施した。調査は、各地区支部長と外部委員の2人1組で、GAPチェックシートにある35項目について聞き取りと現地確認を行った。

平成22年度からGAPの取組みを行っているが、未だに遵守困難な項目があることやGAPの目標が明確化されていないなど課題も浮き彫りとなった。今後は、GAP運営委員会において、今年の調査結果及び課題を取りまとめ、次年度対策を取りまとめることとしている。



【GAPの講評】

■かぶ **ハウスかぶ出荷始まる**

2月19日、各務原市園芸振興会ハウスかぶ部会では目揃会を開催した。出荷は、葉付状態で、3月中旬の露地のかぶが始まるまで続く。露地のかぶより3週間ほど早く出荷され、品質も良いことから市場評価が高い。

農業普及課は、本年の降雨日数が多い気象条件から、葉に発生する病害や近年露地のかぶで増えている菌核病への対策について指導した。



【葉付き状態での出荷】

多様な担い手の育成・確保

■水田農業担い手支援 **J A ぎふ水担協研究交流会**

2月20日、J A ぎふアグリパークにて、J A ぎふ水田農業担い手連絡協議会の第5回研究交流会が開催され、管内の担い手会員と関係者合わせて約250人が集まった。

農林事務所からは、28年に開催予定の全国農業担い手サミットへの協力依頼や27年の水田作に向けた営農支援、今後普及が期待される省力低コスト技術「苗箱全量施肥技術」の実証結果を報告した。



【来賓あいさつ】

■集落営農の法人化 **岐阜小藪ファーム：旧小藪営農組合**

2月22日、羽島市桑原町の双樹園において、農事組合法人「岐阜小藪ファーム」の設立総会が開催された。営農組合員全員が法人へ移行しなかったが、これまでどおり共同作業を行い、地域の農地を守っていくことで同意が得られ、羽島市内で2番目の集落営農組織の法人となった。農業普及課では、これまで視察先の選定や法人化の相談、関係機関との情報共有等を行ってきた。



【設立総会】

■岐阜地域指導農業士連絡協議会 **現地視察研修会**

2月19日、岐阜地域指導農業士連絡協議会は、経営技術及び指導力向上を目的に、農業普及課と連携して、現地研修会として、神戸町の(有)健康やさい村と海津市の岐阜県就農支援センターを視察した。

参加者は、生産者が出資して会社を設立した経営スタイルや県就農支援センターのトマト独立ポット耕栽培への関心が高く、活発な質疑応答が行われた。



【就農支援センター視察】